

吾城新聞

休刊(壹枚)第二日曜
定價五十錢、郵税十錢
廣告料(通所指定千五錢)
發行所 吾城新聞社
編輯 龍崎 龍崎
印刷所 吾城新聞社

共產主義原理の欠陥

吾人は之れを排撃す

●日本共産黨の今回、個人はその生活の爲めに苦
勞につとむる理由とする所を、必要なくその生活資
料は、彼等の標榜する共産主義がこれを供給し、

小兵衛の物語

高田 沢川作
尾崎 雪麿齋
(61)



子分の寛政をつれ小兵衛
うも手前はまた子供だ心
は感服して歸つて行
配するの無理はねが
つた、その後妻が消
えぬうちにうもま
あやつこの源氏車、た
こるの様にうもま
たつた、小兵衛は
は娘のたきぬであつた
と、小兵衛は
「たつた、小兵衛は
は娘のたきぬであつた
と、小兵衛は

土地建物賣却廣告
平町三丁目三十一、三十二番地宅地二百坪(建
物共)右買却致候御希望者は平町三丁目組合
代表小野伊治に御相談被下度候

大黒屋支店
電話三〇六番
開店御披露
料理店を開業致しました

心配ご無用!
淋病最新薬
トリックス

高久病院
電話五二二番

ホシ美固練白粉
他はぐれのない
固練白粉
汗で化粧くづれに困りの方は、是非ホシ美固練
白粉をおつけ遊ばせ。

青沼醫院
内科 小児科 皮膚科 花柳科
平町舊城跡(城山)
青沼 澹夫
電話四〇三番

高麗亭
平町研町一
電話呼出七五〇番

鶴屋商店
種々店内二陳列シテ有リマス
電話百四十番

丸三森川組
熱海 都市 株式會社
東京丸ビル三七八

出張販賣所
一層配達の敏速を期するため
ユラノスケ瓶詰
出張販賣所
電話二〇七番

釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は、の生命なり

### 戀に破れた四十男が割腹

戀は死より強い、四十男の思ひ詰めた執念も、財政の窮迫に伴って去り行く女の心に大きな痕を刻みつけた。句心中を迫られたり、夫れは、願ひを叶えずに、腹の一人心中を許す、喧嘩は死より強し。

### 春の山郷愛戀の悲曲

石城郡川部村消防組の何時か結び付けられた、假病を構え、遂に其の年の秋桃太郎は、自らの部屋に歸り床に入。北庭館の抱きかかると、薄うしたる、落ちて来た、馬車の中へ三浦村（三）の影を、桃太郎は、長い喜びでは、中を覺悟した、始末に及び、

#### 公園露店の敷地當選者

大な金、露店を建て、公園の敷地を、露店を建て、公園の敷地を、露店を建て、公園の敷地を、

#### 女の薄らいて行く戀

頼みと聞かす日が続いて、頼みと聞かす日が続いて、頼みと聞かす日が続いて、

### 平町内の貸家 日毎に塞つて行く

財界漸く好轉の兆か 金融方面も繁多 貸家の貸主、借主、貸主、借主、貸主、借主、

#### 小名津の内部

増子、及川、小川、小林、増子、及川、小川、小林、増子、及川、小川、小林、

大浦倉庫の 共同販賣 一日八百俵 石城郡大浦村製菓倉庫では、昨年十二月から引続き毎月十五日を期して生産米の共同販賣を行ひ既に二千俵を賣却してこれによる増収益が約千五百圓を収め、

平町全戸に亘り 嚴重戸口調査 疑はしくは直ちに検査 花時を眼の前に控えて、悪疫小鳥の會出品に係る小鳥及び流行に大狼狽を見せ、

先夫の命の金を 後の婿が奪ひ取る 逃げた若い燕の行衛を 平署へ捜査願 係員が問ひ訊して見るとこの婦人に石城郡内郷村大字高坂水村キヨ子（三）と、

藤田卒業式 併せてバザー 平町藤田裁縫女学校第三十二回卒業式授受式は、

雑作をさせぬとて 大工棍棒で殴る 飯野村の加藤政之助、月見橋上の活劇、

通俗的な能狂言 明晩平劇場で 観世流能狂言は、能狂言は、能狂言は、

土木委員會 けふ平町役場で、土木委員會は十二日午後十時より、

漆畑氏全快 平町、漆畑氏全快、漆畑氏全快、漆畑氏全快、

幸運者三千圓の大懸賞 本社創業七周年記念の一事業、本社創業七周年記念の一事業、

金曜 又復 又復、又復、又復、又復、又復、

火曜 又復、又復、又復、又復、又復、

水曜 又復、又復、又復、又復、又復、

木曜 又復、又復、又復、又復、又復、

金曜 又復、又復、又復、又復、又復、

火曜 又復、又復、又復、又復、又復、

水曜 又復、又復、又復、又復、又復、

木曜 又復、又復、又復、又復、又復、

金曜 又復、又復、又復、又復、又復、

土曜 又復、又復、又復、又復、又復、

火曜 又復、又復、又復、又復、又復、

水曜 又復、又復、又復、又復、又復、

木曜 又復、又復、又復、又復、又復、

金曜 又復、又復、又復、又復、又復、

土曜 又復、又復、又復、又復、又復、

町官立第三国民学校、町官立第三国民学校、町官立第三国民学校、

抽籤附大特賣、抽籤附大特賣、抽籤附大特賣、